

令和7年度第4回 「地域と共に歩む農業・農村えを考える研究会」

# 「農業団体活動事例紹介」



JA兵庫中央会 営農支援部  
部長 大盛 雅之

# 内 容

1. J Aについて
2. J Aグループ兵庫の組織について
3. 協同組合について
4. ひょうごのJ Aの取組み

# 1. JAについて



相互扶助の精神のもとに農業者の営農と生活を向上し、  
よりよい社会を築くことを目的に組織された協同組合

## JAグループのめざす姿

### 持続可能な 農業の実現

消費者の信頼や実需者のニーズにこたえ、安全で安心な国産農畜産物を安定的に供給できる持続可能な地域農業を確立し、農業者の所得増大を支える姿

### 豊かで暮らしやすい 地域共生社会の実現

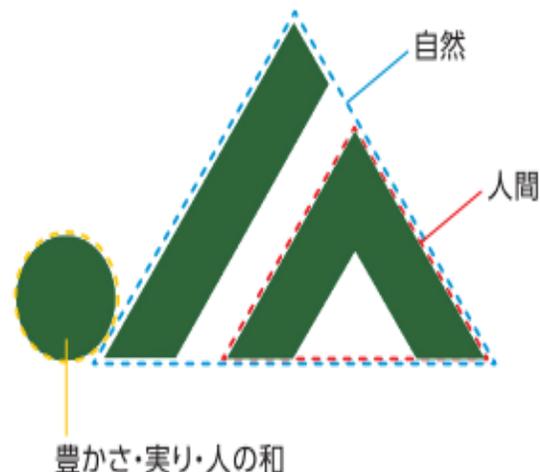
総合力を発揮して地域の生活インフラ機能の一翼を担い、多様な関係者とともに協同の力で豊かで暮らしやすい地域共生社会を実現している姿

### 協同組合としての 役割発揮

次世代や地域共生社会の構成員とともに、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、経営の健全性を確保し、役割を発揮している姿

## JAは農業協同組合の愛称

JAとは「Japan Agricultural Co-operatives(日本・農業・協同組合)」の頭文字をとったものです。1992年4月から、JAが農業協同組合の愛称として統一されました。シンボルマークは緑のアルファベットのJとAを組み合わせたデザインで、どっしりとした大地と人と人のきずなのイメージを表したものです。



## 正組合員と准組合員

JAの組合員には、農業者である「正組合員」と、地域内に住んでJAの事業を利用する「准組合員」の2種類があります。JAは農業者の組織であるため、正組合員と准組合員では、運営に参加する権利の一部に違いがあります。

### 正組合員



農業者、  
農業を営む法人

### 准組合員

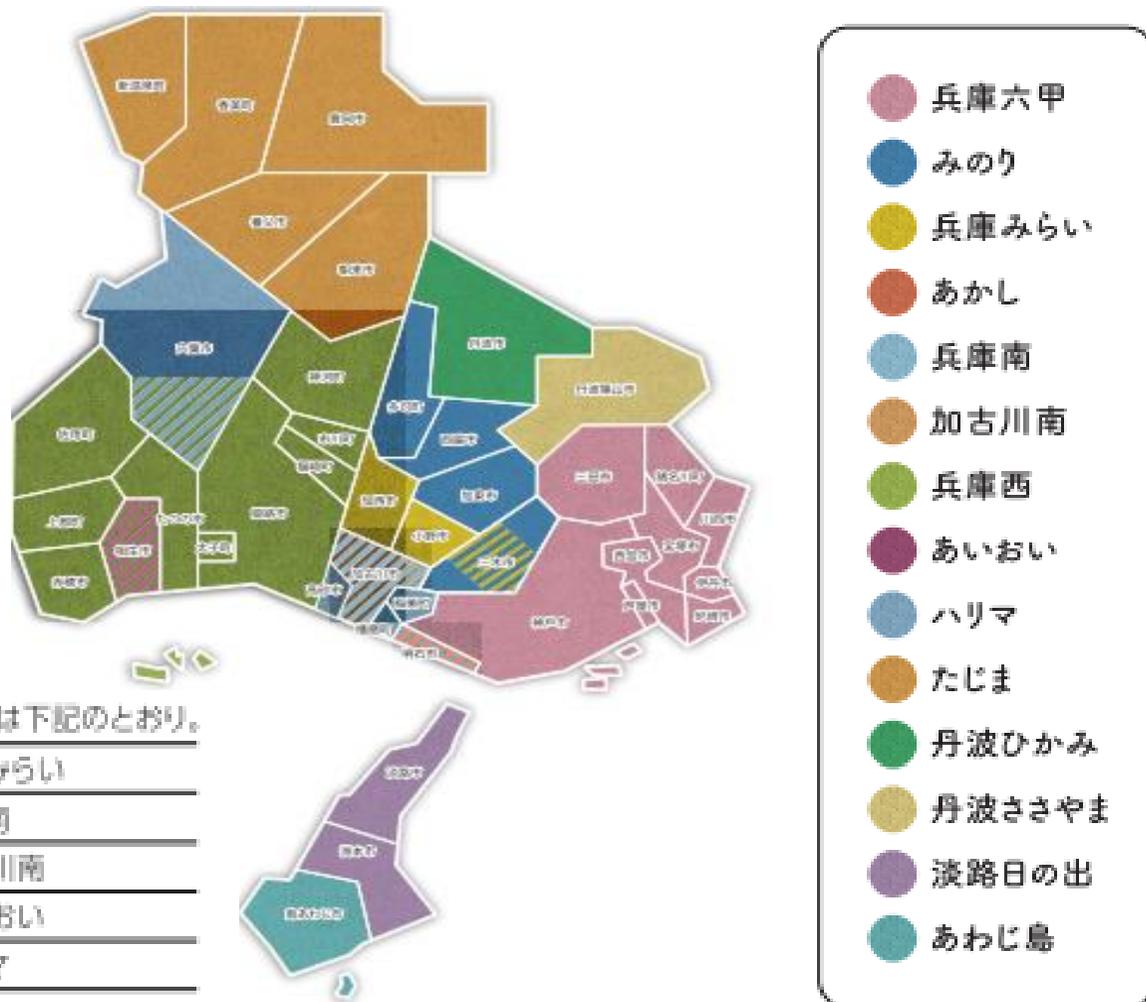


議決権や  
選挙権などが  
無い

地域住民のうち  
JAの事業を  
利用する人

## 2. JAグループ兵庫の組織について

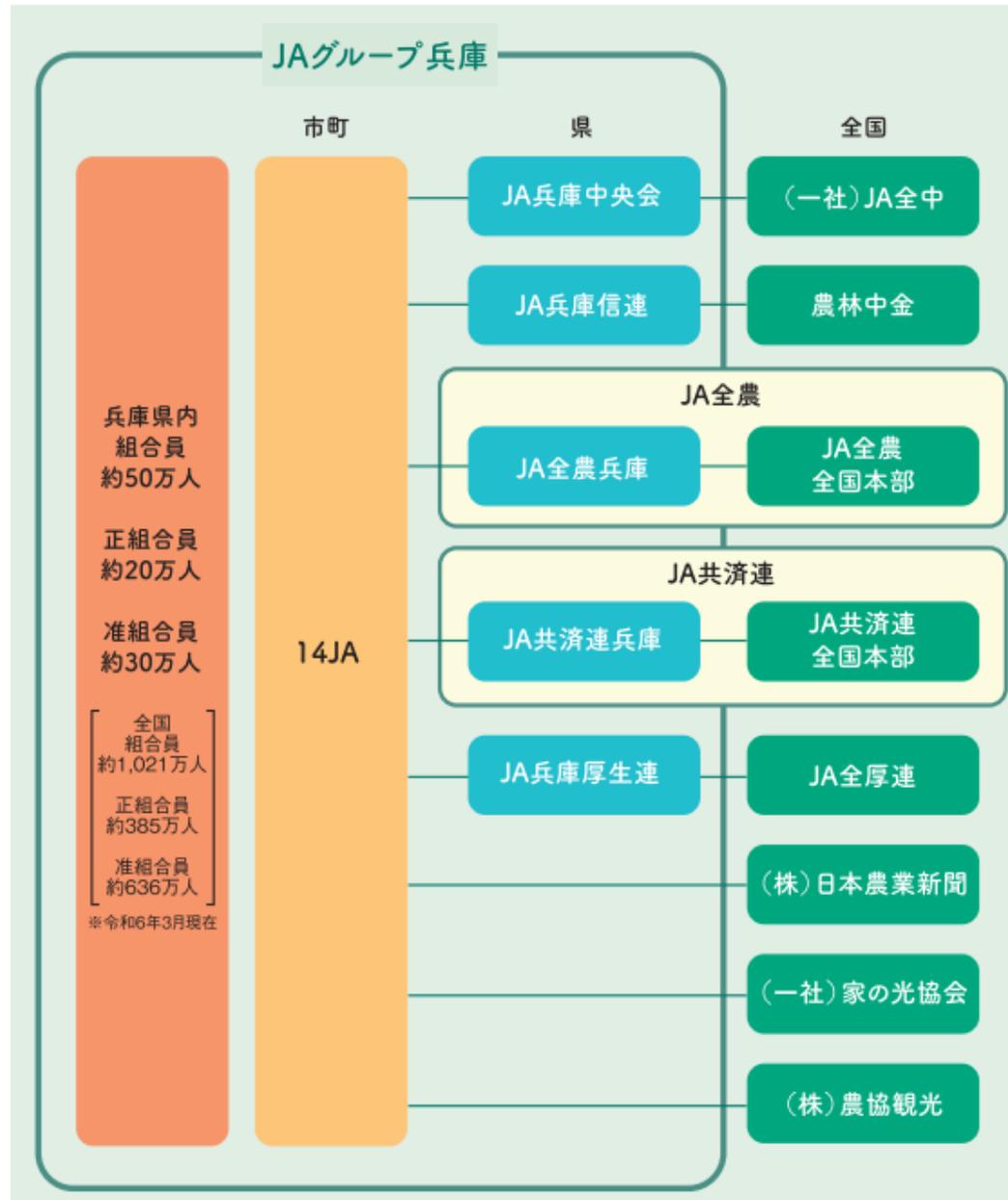
兵庫県内には14のJAがあります。そして、JAグループは、協同の力をより大きくし、効率的に事業を行っていくために、都道府県域や全国域に、JA等を会員とする中央会、信連、全農、共済連、厚生連などの連合会が組織されています。



県内JAの地区は、一部行政で重複しています。詳細は下記のとおり。

①三木市	JAみのり、JA兵庫みらい
②明石市	JAあかし、JA兵庫南
③加古川市	JA兵庫南、JA加古川南
④相生市	JA兵庫西、JAあいおい
⑤宍粟市	JA兵庫西、JAハリマ

# 組合員数

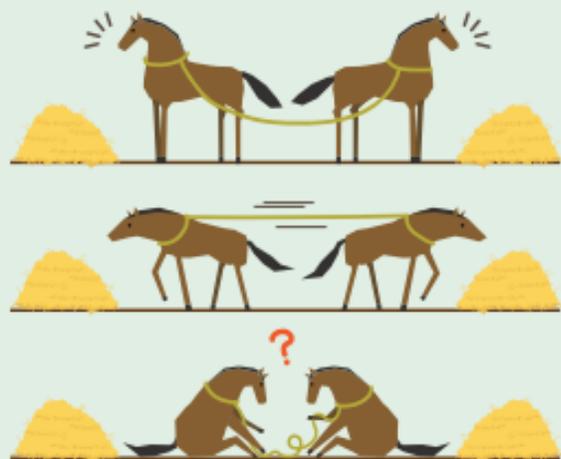


# 3. 協同組合について

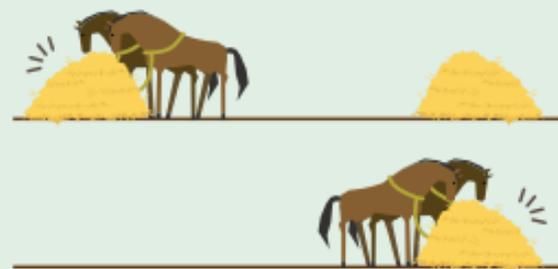
## 協同組合とは

共通の利益を実現するために、個々では弱い立場にある人々が集まり、互いに助け合うこと(=相互扶助)によって、自分たちの暮らしや地域をよりよくしていこうとして作られた組織です。

「1人は万人のために、万人は1人のために」



互いが身勝手にふるまうと、どちらもえさに届かない



協力し合うことで互いに利益が得られる

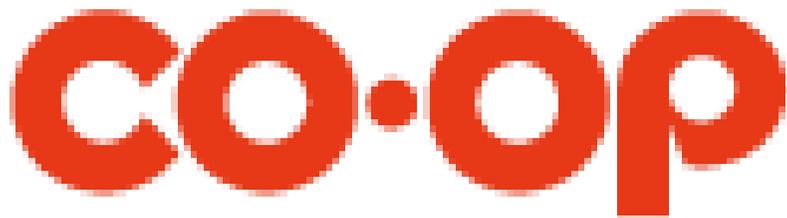
日本の協同組合（主なもの）



農業協同組合



漁業協同組合



生活協同組合



森林組合

## 協同組合と株式会社の違い

	協同組合	株式会社
目的	組合員の経済的・社会的地位の向上	利益の追求
組織者	農業者、漁業者、森林所有者、勤労者、消費者、 中小規模の事業者など【組合員】	投資家、法人【株主】
事業と利用者	事業利用を通じた組合員への最大の奉仕 利用者は組合員	利益金の分配を通じた株主へのサービス 利用者は不特定多数の顧客
運営者	組合員(その代表者)	株主の代理人としての専門経営者
運営方法	1人1票制	1株1票制

### POINT 1

#### 相互扶助

協同組合は、一人ひとりでは弱い立場の人々が連帯し助け合うという相互扶助の精神を基本的な考え方にしています。一方、株式会社は株主で構成され、競争原理を基本的な考え方にしています。

### POINT 2

#### 目的は 生産活動や生活の向上

協同組合は、組合員の生産活動や生活を向上させることが目的で、事業利用を通じて組合員への最大の奉仕を図ります。

### POINT 3

#### 組織者、利用者、運営者が 三位一体

協同組合の組合員は、組織(出資)者であり、組織の運営を行い、事業の利用者でもあります。一方、株式会社は、出資者は株主ですが、事業を利用するのは不特定多数の顧客です。また、株式会社は1株1票ですが、協同組合では議決権が1人1票で運営されます。

## 協同組合とSDGs

### 持続可能な開発目標 (SDGs)

2015年9月の国連サミットで、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、格差や飢餓の解消、気候変動への対応、男女平等の実現など、持続可能な世界へ変えていくための17の目標からなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」が定められました。このSDGsにおいて、協同組合は目標達成のための重要なパートナーとして位置付けられています。

### SDGsとJAグループの取組み

誰一人取り残さないというSDGsの目標は、協同組合の理念である相互扶助、「1人は万人のために、万人は1人のために」という精神と重なります。

JAは地域農業の振興や地域社会に密着した事業を展開し、活動しています。その取組みはSDGsの達成に貢献しています。例えば、JAは新たに農業を始める人たちのサポートを行っていますが、それは目標8「働きがいも、経済成長も」や目標15「陸の豊かさも守ろう」の達成につながっています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs17の目標

# 4. ひょうごのJAの取組み

## ① 農業

### “組合員の「営農」を幅広く支援”

JAは、組合員である農業者のよりよい営農活動を実現するため、さまざまな事業を行っています。たとえば、組合員のニーズに沿った研修機会の提供や技術改良の指導、農家が生産した作物の共同販売、農業生産や生活に必要な資材・物資の共同購入、さらに大型共同利用施設の設置・運営など、組合員一人ひとりに寄り添った支援を通じて、地域農業の発展に貢献しています。



## ○営農指導事業

- ・ 営農技術や農業経営の指導、必要な研修などを行う。

⇒地域農業の担い手とコミュニケーションを深めながら営農活動をサポートすることで、農業経営の改善や農業所得の増大、地域の総合的な農業生産力の維持・向上を目指す。



## ○販売事業

- ・ 農家の生産物を J A が共同で販売する事業。

⇒ J A が集めて共同で販売することで品質や規格をそろえ、個人では難しいスケールメリットを発揮して農業収入を向上させる。



## ○購買事業

- ・ 農業生産に必要な資材（肥料・農薬・種苗・農機具等）や生活に必要な物資を共同購入し、組合員に供給する事業。

⇒計画的な購入によって、安い価格で仕入れ、流通経費を節約して、組合員に安くて安全で質の良い品物を安定的に供給する。



## ○利用事業

- ・ 米や麦の乾燥・調製や貯蔵するための大型共同利用施設、野菜類を出荷するための施設などを設置、運営。

⇒組合員個人では持てない  
ような施設を共同で設置し、  
共同で利用する事業

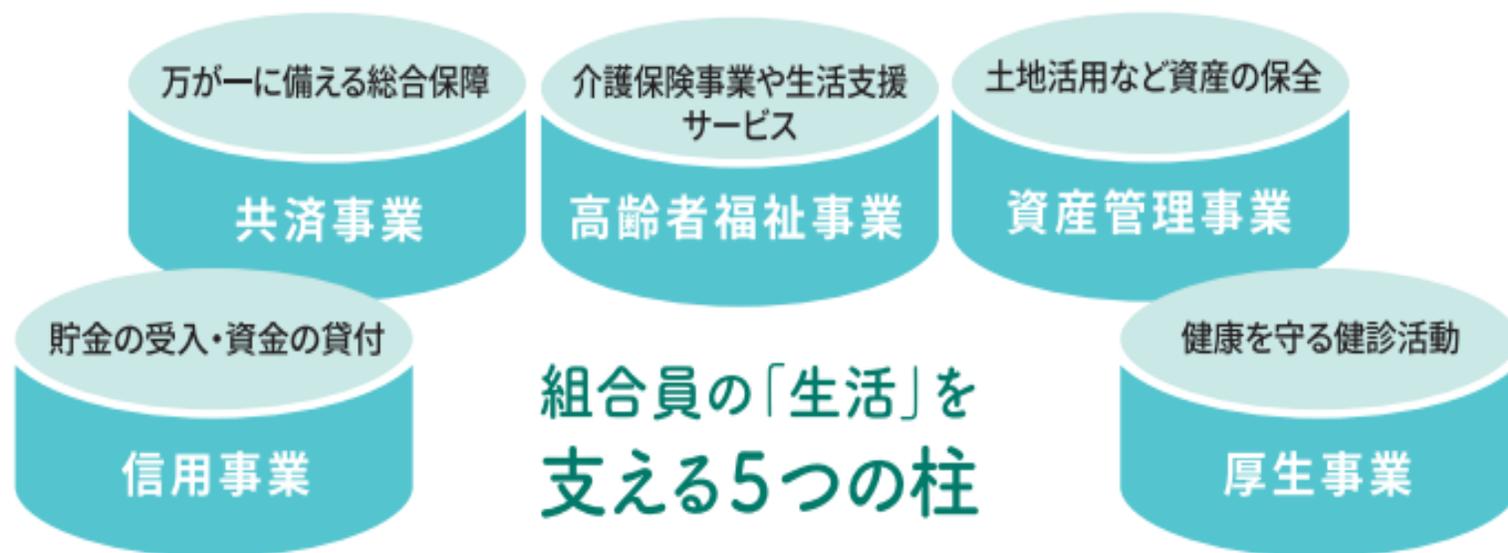


# 4. ひょうごのの J A の取組み

## ②生活

### “組合員の「生活」を幅広く支援”

農業者が暮らしを向上させるためには、農業所得をより多く増やす一方で、財産の管理や病気・災害などに対する備えも大切です。そのため J A は、農業関係の事業・活動に加えて、貯金の受け入れや資金の貸し付け、万が一の場合に備える共済など、組合員の営農と暮らしに関わる事業を総合的に実施しています。J A が実施するさまざまな事業は、農業者以外の方も利用することができ、地域における生活基盤としての役割も果たしています。



## ○信用事業

- ・ 組合員からの貯金の受け入れ、組合員に対して必要な資金を貸し付ける事業

⇒受け入れた貯金を営農資金や生活資金として貸し付ける相互金融によって組合員の営農と生活の向上を目的



## ○共済事業

- ・ 相互扶助の理念に基づき、「ひと・いえ・くるま」等の総合保障を提供し、生活の安定と将来の安心を目的とした事業

⇒病気、建物災害、自動車事故等、不慮の災害、事故にあった際に、加入者に保障を行う。



## 4. ひょうごのJAの取組み

### ③ JAくらしの活動

JAは地域の活性化や、安心して暮らせる地域社会の実現を目指して「くらしの活動」を支援しています。「くらしの活動」とは、組合員や地域住民が抱える「くらし」のニーズを実現していくために行う活動です。農業体験や料理教室を通じた食農教育活動、組合員・地域住民の生きがいつくりとしての生活文化活動などがあります。

#### JAくらしの活動の内容

事業	内容	活動事例
食と農を結ぶ活動	食と農業の理解を深め、農業の大切さ・素晴らしさを広める	農業体験、料理教室、学校給食への食材提供、地産地消ツアー、国消国産活動 等
高齢者生活支援活動	元気な高齢者の生きがいつくりや生活の自立を支援する	高齢者福祉施設訪問、高齢者ふれあいサロン、助け合い活動、高齢者世帯に対する声かけ 等
健康管理活動	心身ともに健康で生き生きとした暮らしを支える	体操教室、健康料理教室、健診活動、健康相談 等

## JAくらしの活動の内容

生活文化活動	組合員や地域住民の生きがいづくり、くらしの設計などを支援する	料理・手芸教室、ライフプラン研修会、家計簿記帳運動 等
地域貢献活動	安心して暮らせる豊かな地域社会づくりに貢献する	環境保全活動、交通安全教室、防災・防犯活動、子育て支援、学童保育 等
くらしの相談活動	組合員等の暮らしに関わるさまざまな問題解決を支援する	資産運用、年金・相続相談、農地の活用 等
組合員組織 育成支援活動	組合員組織の自主・自立的な組織づくりを進める	世代別組織・目的別グループの育成、女性組織の活動支援 等



食農教育



福祉施設訪問



交通安全見守り

## コラム①

# 持続可能な農業のための「国消国産」



「国消国産」とは、「私たちの『国』で『消』費する食べものは、できるだけこの『国』で生『産』する」という考え方のことで、JAグループ独自のキーメッセージです。日本は今、食料の約6割を海外からの輸入に頼っています。いざという時の食料に困らないために、「国消国産」を積極的に進め、農業を持続可能なものにしていく必要があります。JAグループは、「国消国産」の重要性を国民全体で一緒に考えていけるよう、国連が定める「世界食料デー」に合わせ、10月16日を「国消国産の日」として定めています。兵庫県内のJAにおいても、直売所や支店でのチラシ配布を通じて国産品・地場産品の購入を積極的に呼びかけるなど、地域住民の皆さんに「国消国産」の重要性を伝えています。



JA直売所や支店で配布された「国消国産」を伝えるチラシ

## 「国消国産」を進めると、いいことがたくさん!

食料自給率、アップ!

おいしくて、安全・安心!

食べて、日本の農業を応援!

輸送によるCO<sub>2</sub>を削減!



えみ  
みんなの「よい食」を応援する「笑味ちゃん」

笑味ちゃんは、JAグループが進める「みんなのよい食プロジェクト」を応援するイメージキャラクターです。「みんなのよい食プロジェクト」とは、心と体を支える食の大切さ、国産・地元産の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝え、国産・地元産と日本の農業のファンになっていただくという運動です。「家庭菜園で頑張って育てた野菜のサラダ」「バランス良く、しっかり噛んで食べる」「手作りの食事を毎日食べる」「忙しくても朝食を必ず食べる」…一人ひとり、自分にとっての「よい食」を考え実行してみることが、日本農業の応援、そして未来の食の安定につながるのです。



PROFILE

- 年齢：7歳／小学2年生
- 性格：いつも明るく元気、食べること大好き、好奇心旺盛、思っていることは素直に言っちゃう
- 特技：「食のポーズ」をカッコよく決める！（右図）
- 口ぐせ：パク！

